電燈料金値下げ

郊外電鐵各社が 何れも六月一日から實行

10.5.19 大朝

大阪遞信局は愈よ來る一日より十六燭光一燈五十五錢五厘と値下實施は既報の如くなるが郊外電鐵の阪神、阪急、京阪、南海、高野の各社も其後値下を其筋に對し申請中なりしが今次許可の指令に接し來る六月一日より左記料金を以て値下實施の筈なりと

	舊	新
六燭	六十四錢	六十錢
十燭	七十七錢	七十一錢
十六燭	八十九錢	七十九錢
二十四燭	一圓十七錢	一圓三錢

但しメートルによる計算は十ワット毎に一錢強の値下を爲す筈なりと

の怪しき男子徘徊するを認め本社は大阪署に連行取調べたるに右は大阪市北區西野田西之町四千九百六番地若松三郎方の丁稚東橋良一(一七)にて同人は本月十日主人の命に依り郵便貯金二十圓を引

考へ物だ◆大電の騒動よヤット
のとで圓滿に解決した◆覺書か
ら見れば職工側の勝利で役側は弱
ベチヤ〳〵云ふ事に爲る◆團體交
渉權と職工非解雇の二項が條件附
きにせよ承認されては職工側が勝と
云はねば爲らぬ◆此の團體交
渉權の承認は外の工場にも屹度影
響があるから勞働問題は段々根本
に觸て來る◆[illegible]

新紀元

峠を越えて（下）

宮葉 寄

10.5.19 大朝

▲私も同じ様な勞働者だ。勞働生れ落ちてからの勞働者だ。勞働を押し附けられて、そのまゝやつて來た勞働者だ。だから、この號外を見る人の中で一番胸をどきめかす人間の一人だ。笑ひ事の高見の見物とは思つて呉れるな。

▲だが、お前達は淺慮な考へを持つてゐるから、私は一所に行動はされない。そんなに騒いで何にならう。よしそれが爲に、お前達の目的を達したとしても、それは眞の吾々の自由の爲に何でもないではないか。これは大切な事だ。

▲然うではないか、お前達の精神は、その要求貫徹の爲に躍る精神は、虐げられた者の總てが持たねばならぬものだ。けれど、思索と實行とには背景といふものがある。

▲背景を無視した實行は、地を離れた行動だ。地を離れた浮はついた行動に、私の全生命を任せられない事が判るだらう。背景を突破した人間の行動は、結局無意味だ。徒勞だ。

▲だから、私は、お前達の今度の騒ぎに、苦笑を禁じ得ない。聞けば、賀川豊彦といふ高名な人も御身達の參謀に居るとの事だが、賀川豊彦氏の言葉を聞かなかつたのか、聞いたのなら、賀川豊彦氏は頼むに足らぬ人間だ。

▲彼は實際運動に手を着けるよりも、物を書いたり演壇に立つたりしてゐればよい人間かも知れない。實行と思索とには、それ丈け距離があるのだ。

▲とにかく、今の日本の社會状態で、この様な騒擾のやうな行動は見合せたが好い。これは少し吾々の周圍を冷靜に觀察すれば直ぐ解ることだ。

▲解るまで妄動する事を謹んでゐるのが吾々全體の仕事への奉仕だといふことも判る。

▲是はあながち騒ぐのが悪いといふのではない、只だ吾々個々が、その騒の爲に、それ丈け損をするかも知れないので、氣の毒に思うて言ふのだ。

▲つまり忍從の態を崩すなと言ふのだ、あゝ忍從の長い苦痛！だが堪へれば眞の自由はやつて來ないのだ。

▲吾々は、この虐げられた生活を、深く〳〵味はねばならぬ。氣味の悪い位に沈默して味ひ盡すのだ。然うした生活に眞の力が自然と生れて來る。

▲誤れる社會を、根から引抜く眞の力が生れて來る。吾々の苦痛は、吾々を虐げつゝある者が、生血を吸ふ苦痛だ。彼等はやがて枯れてしまふのだ。

▲眞に苦痛を味ふ者は、眞實の意味に於て強者だ。物質の多分な所有者はそれに有頂天になつてゐる限り眞の弱者だ。今、現に沈默して資本家の虐待の苦痛を味ひ得る者は強者であるのだ。

▲その代り今騒ぎ立てゝゐる者は一人殘らず資本家と同じ弱者である。この心境へ來い。こゝまで來れば救はれるのだ。

▲「救はれる！」と私は今言つた。確に救はれると思ふ。いや信じろ「救はれる！」と今自然に言つた言葉に、私はカチリと石を掘り當てたやうな氣がした。

▲そして、私は、この文のはじめに言ひにくかつたあの氣分は、もう言つてしまつたやうに、胸がスツとして來たのを感じる。

▲それは何故だらう。それは、私の心が完全に或る一點に集中されたからだ。私の心が諧調を得たからだ。眞直に眞理の道を見透すことが出來たからだ。

▲私の灰色の苦痛に眞理の裏書がされたからだ。私の苦痛を肯定出來たからだ。そして、私の身體の疲勞が飛び去つてもゐる位強くなつたのだ。この私の心境を、一歩々々外延する事に依つて、私は益々完成されて行く。

▲それはまあ太陽の光のやうに、平等に物皆を溫和に抱擁して行く愛の化身だ。私は愛の化身だ。

▲こゝで私は、またこの言ひやうもなく和平の心持が具體化しないのに困ります。世の中に悪が無いのです。一切の善もない。皆が平等に見出される。

▲只、私は、このこれからの生活で、これを具體化して行くより他に、何にも出來ないやうです。このまゝ寢床に入つて、不意に死んでも、少しも思ひ殘すことはありません。

▲私は、この整調した心の住家を持つてゐるから、完全に自由人になり得た。何といふありがたいことでせう。

▲夜が更けて來た。ではこれから休みませう。街で騒いでゐた人々は、今夜は眠られなくて困つてゐるでせう。彼等は、實行の爲に生きてゐる人々だ。實行の爲の實行しか知らない人だ。物質ばかりに生きてゐる人々だ。この現實を、ざつくばらんに見てゐる人々だ。

▲この勞働爭議に囚はれた人人を、私の友達の中に一人でも無くする事は、自ら美しい人間の仕事であらうと思ひます。

▲不滿足乍ら、私の言ひたい事の幾分かを果して今夜、久々で安らかに眠りませう。（一九二一、五、一五夜）